

JA津軽みらい

「もっと応援します新規就農」
新規就農者座談会

「やっぱ農業って面白い」
渡辺 実家はリンゴ農家で、東京の大学に進学し、カシスやブルーベリーの栽培を勉強しました。元々は食品メーカーへの就職を目指していましたが、栃木や静岡の農家で研修しているうちに「やっぱ農業って面白い」

農林中央金庫・JAバンクのCSR活動(社会貢献活動)の一環として、一般社団法人JAバンクアグリ・エコサポート基金は、地域農業の担い手を育成するため、全国の新規就農者に営農費用の助成を行っています。

青森県のJA津軽みらいでは、この助成金の利用推進やJA独自のサポートを通じて、若手・女性後継者の就農・定着化に実績を上げています。3人の女性新規就農者とこれをサポートするJA津軽みらいの皆さん、そしてJAバンクアグリ・エコサポート基金の理事である見城美枝子氏が、新規就農の課題や展望を語り合いました。

※司会は(一社)JAバンクアグリ・エコサポート基金 <文中敬称略>



農業って面白くてカッコイイ

司会 皆さんの就農のきっかけや、そこに至るまでのエピソードを聞かせてください。
三浦 農業を営んでいる両親が高齢となり、誰もやらないなら私がやる、という気持ちです。東京からUターンして就農しました。実家で作る野菜がとておいしかったからというのがありますね。
京野 夫が農業を継ぐことになりましたが、私は勤めていたので休日に手伝うくらい

地域農業を開く女性の力

と感じ、卒業後は迷わず就農しました。
見城 青森は夏が冷涼で冬も長く、一見すると農業には厳しい環境に見えます。しかし先人の努力のおかげで、その気候や風土を生かした、素晴らしい農産物に恵まれています。私も大好きです。その中で生まれ育った皆さんが地域に根差した農業を引き継いでくださっていることを、うれしく思っております。

女性の感性が農を変え

司会 就農に当たって、女性ならではの苦労はありませんか？

走り回って元気いっぱいに育っています。
司会 農業は女性ならではの感性を生かせると思えますがいかがですか？
京野 女性には農作業との相性も良いと思います。例えばリンゴの栽培では葉取りや、その他にも手間のかかる細かい作業がたくさんあります。が、男の人は地道で根気のいる作業が苦手なんです。だから夫と役割分担をしています。

この事業を利用しての感想などを聞かせてください。
三浦 この事業は使える用途が幅広くとても助かりました。青森の高冷地野菜は収入がある期間が3カ月間と短く、資金繰りに頭を悩ませていたのですが、この助成のおかげで思いっきり営農に打ち込めます。
京野 JA職員の方と私たち新規就農者は、この助成金を通して関わる機会が一番多いです。この助成金の利用を勧めてもらったことでJAの久塚さんと知り合っただけで、とても感謝しています。

整理して、生産・販売面を中心にきめ細かい支援を行っています。また、20代から30代の若手農業後継者を対象に生産技術の向上や、地域農業のリーダー的な人材育成に取り組み「JAみらい塾」や、女性後継者同士の交流や仲間づくりを目指して「みらい女子会」を開講しています。若手農業者によるプロジェクトチームは特産品を開発し、今年の8月に仙台市の「みのりカフェ」で販売しました。
三浦 私も若手農業者のプロジェクトチームに参加して、米や桃などのジェラートを開発し、販売しました。お客さ

指して勉強をしています。
見城 頼もしいですね。皆さんのような新世代の農業者の活躍は、今後続く新規就農者が一歩を踏み出す力になります。今は「農業女子」など女性であることが注目される時代ですが、経営の本質を問われる日が必ずやってきます。一人の経営者として、しっかりと農業に向き合い、しっかりと農業に引き合います。食の自給なくして国の自立はありません、地域から日本全体を盛り上げるためにも、皆さんの一層の活躍を期待しています。
全員 ありがとうございます。

でしたか。
三浦 特にないですね。子どもの頃から当たり前のように親の手伝いをみっちりしていたので。私自身、農業機械も運転するし、重いものを持つなど力仕事にも慣れました。
京野 もっと農業や経営のことを学ぶ場所があったらな、と思うことはあります。男性はいろいろ集まる機会が多いようだけれど、女性は少ない。

環境が整ってきたように思います。そして、コンピューターが農業の世界を変えつつあります。昔はトラクターのハンドルはとて重かったけれど、コンピューター制御で力が要らなくなりました。もともと農業は女性に向いているけれど、情報技術(IT)の活用によって女性が入りやすくなっているし、ますます活躍が進むと思います。

予定ですが、リンゴの苗木の購入に使いたいんです。この助成金は久塚さんの紹介で知りました。就農の後押しをしてくれる事業ですので、もっと広く知られると良いと思います。
見城 新規就農者の皆さんに役立つ事業だから、活用が広がるようにもって周知していきたいですね。JAが新規就農者を定着させる役割にも期待しています。

の喜びや反応を間近で見ることができて、今後の経営にも生かそうです。
地域と暮らし守り
夢いっぱい
司会 農業を通じて実現したい夢や目標を教えてください。
渡辺 持続可能な農業を地域に広めるのが目標です。この10年くらいで耕作放棄地がかなり増えました。そういうところから病害虫が出たり、道路が草に埋もれて使えなくなったりします。耕作放棄に歯止めをかけ、農業環境を維持していくのも私の役目だと思っ

管内では一大生産地を形成しているリンゴや「青天の霹靂」をはじめとする米、高冷地で栽培する良質な野菜などが生産されています。JAは若手農業者の育成のため、「JAみらい塾」、[若手農業者プロジェクトチーム]の他、女性就農者交流の場として、「みらい女子会」を設けています。またJAバンクアグリ・エコサポート基金の新規就農応援事業をはじめ、新規就農者に役立つ情報を提供しています。



JAバンクアグリ・エコサポート基金理事
見城 美枝子氏
エッセイスト、ジャーナリストとして活躍。主な著書は「ニッポンの食と農 この10年」「会話が苦手なあなたへ」など、青森大学副学長、JAバンクアグリ・エコサポート基金理事などを務める。



京野 穂奈美さん
平成24年に就農し、1.8畧でリンゴを栽培している。



久塚 和氏
JA津軽みらい 営農課 営農課 TAC班 主任



三浦 優香さん
平成26年に就農し、6畧(家族)でハウス、ダイコン、トウモロコシ、キャベツ、カブ、ニンジンなどを栽培している。



渡辺 優希さん
平成29年に就農し、3.5畧でリンゴ、カシス、ブルーベリーを栽培している。

担い手を支える万全のサポート体制



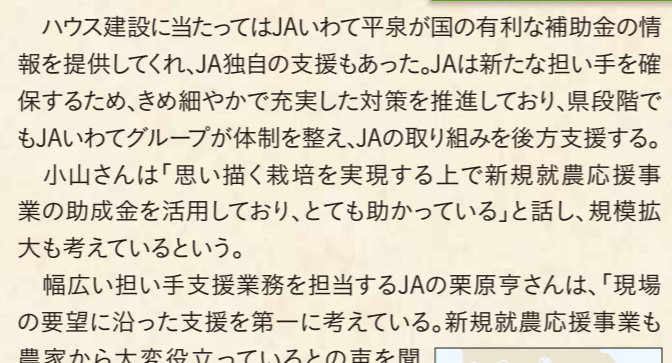
JA津軽みらい 営農部長 今井 功氏

JAバンクアグリ・エコサポート基金は、平成22年度から、新規就農者の研修受け入れ先に対する助成事業を開始しました。平成27年度から、将来の国内農業の中核的な担い手として期待される独立新規就農者に対して、就農直後の経営の安定化を支援する目的で、1人最大60万円(年20万円まで3回まで)の農業費用を助成しています。また、既往の研修支援事業も、より多様な新規就農者を育成することを目的に助成対象を拡大しています。

営農支援事業 利用者の紹介



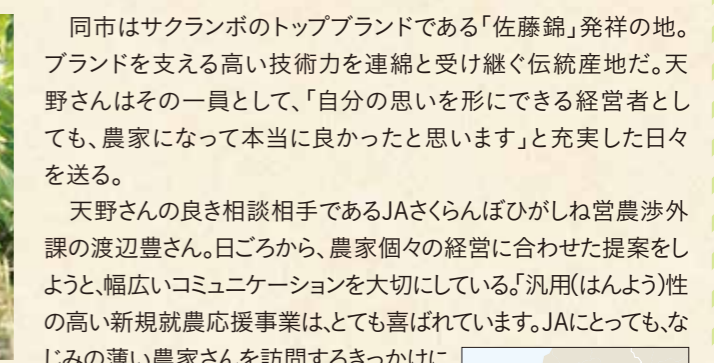
岩手県 JAいわて平泉 小山 健さん
岩手県一関市の小山健さんは26歳の時にサラリーマンを辞めて、地元でトマトを作り始め、3年になる。トマト専業農家の実家を手伝いながら1年間栽培技術を学び、山あいの農地を借りてハウスを建てた。



山形県 JAさくらんぼひがしね 天野 真智子さん
「一から手をかけて、収穫できた時の喜びは想像以上に大きかったですね」。山形県東部、東根市の天野真智子さんはサクランボを作っている。就農3年目にして初めて迎えた収穫に思わず顔がほころぶ。



同市はサクランボのトップブランドである「佐藤錦」発祥の地。ブランドを支える高い技術力を連綿と受け継ぐ伝統産地だ。天野さんはその一員として、「自分の思いを形にできる経営者としても、農家になって本当に良かったと思います」と充実した日々を送る。天野さんの良き相談相手であるJAさくらんぼひがしね営農渉外課の渡辺豊さん。日ごろから、農家個々の経営に合わせた提案をしようと、幅広いコミュニケーションを大切にしている。「汎用(はんよう)性の高い新規就農応援事業は、とても喜ばれています。JAにとっても、なじみの薄い農家さんを訪問するきっかけになり、この事業を通じて新しい提案を行うなど大いに役に立っていただいています。天野さんの夢は「自分の子どもがサクランボ農家になりたいと言ってくれるような、農家になることです。女性らしさを前向きに生かしていきたいです」。



ハウス建設に当たってはJAいわて平泉が国の有利な補助金の情報を提供してくれ、JA独自の支援もあった。JAは新たな担い手を確保するため、きめ細やかで充実した対策を推進しており、県段階でもJAいわてグループが体制を整え、JAの取り組みを後方支援する。小山さんは「思い描く栽培を実現する上で新規就農応援事業の助成金を活用しており、とても助かっている」と話し、規模拡大も考えているという。幅広い担い手支援業務を担当するJAの東原亨さんは、「現場の要望に沿った支援を第一に考えている。新規就農応援事業も農家から大変役立つとの声を聞くことができ、感謝している」と笑顔で話す。今は2人の子育てに専念する妻、麻希さんは「最初は不安でしたが夫は頑張ってくれています。4年目からは私も力になっていきたい」と、夫婦で力を合わせていく。